

家族防災会議を開く

災害は、家族全員がそろっているときに発生するとは限りません。

いざというときにあわてず落ち着いて行動できるよう、災害発生時の対応などについて日頃から家族で話し合っておきましょう。

【取り上げたい話題】

● 家の中や周囲の安全対策

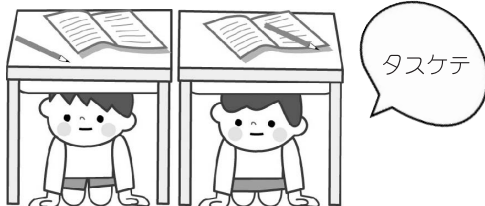
- 地震対策として、家具を固定したり配置を見直すなど、安全な空間づくりに努めましょう。
- 火災対策として、家の中に二方向以上の避難出口を確保しておきましょう。
- 暴風対策として、家の周囲の植木鉢、物干し竿など飛ばされやすいものは片付けましょう。

● 避難場所、避難方法

- 自宅や職場などに近い避難場所を確認しておきましょう。
- 実際に避難場所まで歩いて避難経路を確認しておきましょう。
- 避難する際は火元を確認し、戸締りをして、隣近所で協力し合って避難しましょう。
- 危険が切迫している場合は、自宅などの安全な場所に一時避難することも検討しましょう。

● 安否確認の方法、落ち合う場所

- こどもセンターや学校における災害時での子どもの迎えなどに関する取り決めを確認しておきましょう。



- 家族との連絡方法や、安否を確認するルールを決めておきましょう。同時に被災しにくい離れたところに住む親戚や知人を経由して連絡を取る方法なども検討しましょう。
- 「災害用伝言ダイヤル171」の利用方法を確認しておきましょう。
- 家族がバラバラになったときに、最終的にはどこで落ち合うのが決めておきましょう。

● 家族の役割分担

- 避難する際に誰が何をするのか（火元の確認、非常持出品の運搬など）役割を決めておきましょう。
- 隣近所に高齢者などの要援護者がいる場合は、支援の方法なども考えておきましょう。

● 非常持出品

- 非常持出品の保管場所を確認しておきましょう。
- 食品の賞味期限や電化製品などのチェックをしておきましょう。

災害用伝言ダイヤル

災害の発生により被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板サービスです。「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行ってください。



自助／共助／公助

町づくり企画課企画係主査 和田 潤さん

災害発生時には、行政による「公助」はもちろんですが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や隣近所で協力し合う「共助」が大きな力となります。自然災害の発生を防ぐことはできません。しかし、災害による被害は日常の備えによって最小限に食い止めることができるはずです。防災を人任せにせず、地域とのつながりを大切にしながら、災害発生時に一人ひとりが自信を持って行動を起こせるよう、普段から危機意識を持つことが大切です。